

事務事業チェックシート

事務事業No 事業名
416 自然観察の森管理運営事業

[長期総合計画]

分野別目標	1	安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
政策	3	農林水産業の活性化
施策	1	農林業の振興
取組方針	4	農業と環境の共生

事業種別	継続	
事業期間	H	H
事業実施の根拠法令	和歌山自然観察の森条例	
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	農林水産課	太田 克弘(435-1049)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	農林水産業費		
	項	農林緑花費		
	目	四季の郷公園事業費		
	大事業	四季の郷公園事業		
事項	四季の郷公園管理運営事業 (自然観察の森)			

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か)	事業内容				
	身近な自然環境の中で昆虫、野鳥等の小動物及び植物と触れ合い、これらの観察を通じて自然への理解を深める場を提供する。	ネイチャーセンターでは、自然観察の森で見られる昆虫や植物の標本および写真を展示している。また、低年齢児対象の遊具等を併設し、遊びながら楽しく自然と触れあうことで、幼少期から感受性を高めるとともに自然保護精神を学べる場として整備している。その他、竹林の観察・タケノコ掘り体験をはじめ年間約25～30回のネイチャーイベントを実施する。詳細は、毎月の市報わかやまやホームページに掲載し、情報の発信を行っている。また、施設の維持・管理については、指定管理者が行っている。				
実施内容		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		竹細工教室等を年間25回開催する。	竹細工教室等を年間25回開催する。	竹細工教室等を年間25回開催する。	竹細工教室等を年間25回開催する。	竹細工教室等を年間25回開催する。

2 事業コスト

事業費等 (千円)	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	18,845	18,680	18,134	18,201	18,184	18,053	19,123		19,123	
伸び率 (%)	-	-	7.6%	▲2.6%	0.3%	▲0.8%	5.2%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	正規職員	3,812	3,781	3,812	1,564	3,812	1,810	1,921		
	正規職員以外	6,460	6,723	6,460	5,615	6,460	5,448	4,670		
小計	10,272	10,504	10,272	7,179	10,272	7,258	6,591			
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他	16	8	16	4	16	18	13			
一般財源 (税等)	18,829	18,672	18,118	18,197	18,168	18,035	19,110		19,110	
所要人数 (人)	正規職員	0.51	0.50	0.51	0.21	0.51	0.23	0.24		
	正規職員以外	3.06	3.06	3.06	2.86	3.06	2.48	2.12		
主な予算内訳	管理運営委託料 14,120千円									

3 目標及び実績

指標名	単位	目標値	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
活動指標	イベント回数	目標値	25	25	25	25	25
		実績値	25	24	25		
		達成度 (%)	100.0%	96.6%	100.0%		
成果指標	イベント参加者数	目標値	2,000	2,000	2,000	2,000	
		実績値	1,950	1,752	1,610		
		達成度 (%)	97.5%	90.0%	80.5%		

4 事業の評価

評価基準						
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい		減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要		見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能		市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか	○	急いで取り組む	○	中長期的に取り組む		緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない		できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)		達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある		貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある		できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正		負担は求められない	○	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>現在、子供たちが、自然環境について実際に体験学習し、遊べる機会が少なくなっています。本市においても、子供たちが自然環境について親しめる場を提供する必要があります。よって事業の必要性があります。</p>
見直し・改善内容	